

東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002 東京都国立市東1-4-20-102

2015年3月号《No.9》

TEL 042-577-6181 FAX 042-577-5574

今月の聖句

世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見て、あわれみの心を閉じる者には、どうして神の愛が、彼のうちにあるのか。

ヨハネ第一の手紙3章17節

主題

| | | |
|---------|---------------------|-----------------------|
| 国際会長 | Wichian Boonmpajorn | 「信念のあるミッション」 |
| アジア地区会長 | Edward K.W.Ong | 「愛をもって奉仕をしよう」 |
| 東日本区理事 | 渡邊 隆 | 「原点に立って、未来へステップ」 |
| あずさ部長 | 標 克明 | 「ワイズメンとして一歩前進」 |
| 武蔵野多摩会長 | 宮内 友弥 | 「共に学びあい、活かされる社会を目指して」 |

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

五つの誓い

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにYMCAにつくそう
1. 世界的視野を持って国際親善をはかろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずることをさたろう
1. 出席第一と奉仕第一とを旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する。
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる。
5. 健全な交友関係を作り出す。

2月の出席率 92.85% 在籍者 14名 出席者 13名 メネット1名 ゲスト 2名

事実と予想 (続)

清水 彰直

予想とは、「夢や希望」を含み、人が生きて行くのに必要なことです。しかし、人の社会では「事実と予想」を区別することが必要です。その典型的な事例は、スポーツと司法制度です。スポーツは、客観的な事実に基づいて判定する審判があります(審判自身が間違える可能性はゼロではないのですが)。また、司法制度では、犯罪行為を実施したという客観的事実が無ければ人は罰せられない(無実の人は罰しない)。

しかし、事実と予想を間違えて伝えるのは主にテレビです。テレビは、同じ画面を何度も繰り返し

見せ人を錯覚に導きます。また個人の意見を紹介する時、どのような個人を選ぶかは、各テレビ局が自由に決めています。結局、新聞、テレビ、週刊誌等の伝えることは、どこまでが本当か注意をしなければならないということです。

なお、事実と予想（続）としたのは、2015年の6月号に「事実と予想」という題目で巻頭言を書いているからです。

2016年3月例会の様子

日時 3月9日19時 会場 西東京センター

司会 野尻ワイズ 聖書・祈祷 小坂メネット 受付 清水・山口ワイズ

ゲスト 小山 憲彦ワイズ（東京サンライズクラブ）

卓話 BF オーストラリアの旅 小山 久恵ワイズ（東京サンライズクラブ）

少年時代、短波ラジオを作り上げて聞いた第一声、ワライカワセミのインターバルシグナル、ラジオオーストラリアの衝撃、オーストラリアと聞けば今でも聞こえる。

オーストラリア縦断ソーラーカーレースには世界中の獺が集まる。南極観測船最後の寄港地パースに十日ほど滞在した、街に出ると不動産屋が多いなと思いき近寄ってみるとヨット・モーターボートの写真付きの斡旋だった。オーストラリアを四国に例えると、パースは足摺岬、土佐湾（グレートオーストラリア湾）をはさんで室戸岬つまりメルボルン・シドニーのある地域が小山ワイズの卓話の舞台。

「9月14日憲彦ワイズと同行で出発予定でしたが取り込みがあり10月5日一人で出発しました。初めのプランでは予定の全クラブを回って最後にエリア大会に出席の予定でしたがエリア大会がスタートになりました。

オーストラリアのYsは衰退しており、訪問したオーストラリア全体の6から8分の1の地域だけに固まっていた、シドニー近郊のセントラルコーストとベンディゴ市エリアセントラルノースエリアにクラブが12、会員数214人ということでした。一部分に固まってといっても端から端まで日本縦断の距離と同じくらいです。

フィジー島のスパクラブは大学生たちだけのクラブで、きまった例会日は無く提案などネットで呼びかけ活動していました。「卒業就職してからも続けるの？」の質問に「たぶんね」の答えでした。

日本ではシドニーメルボルン間は近い感じがしますが1000キロありハイウェイは制限速度180キロです。

東京から乗り継いで24時間シドニーの北80キロ、セントラルコーストのメンバーで2001年に私同様BFで来日、それ以来のお付き合いのお宅にまず滞在しました。ペリカンが足元に来るような土地柄です。この国は動物と花と鳥が自慢でどこに行ってもその土地の動植物園があります。私はまず爬虫類園に連れてゆかれました、目を引いたのは毒蜘蛛に注意の立て札、トイレに座った途端に刺されて死ぬこともあるそうです。

サウスパシフィックエリアコンベンションの場所海辺の町ジーロンへは車で1泊2日かかりでした。モーターやキャンピングカーから会場に集まって来ます、参加者は45名国際会長などゲスト10名総勢55名であずさ部の部会より少ないですね、緊張感もあまりなく半袖短パン、しかし居眠りは一人もなく活発な質疑応答がされました。

晩餐会用にそれなりの身なりを用意していたのですが・・・普段着で出席、あたりでした。

彼らは食べ物に対する感性は淡白で、昼食は重かったから夜はスープダイナーとスープだけとか、ご主人が気軽に朝食を用意してくださる等・・・整った広い日曜大工のスペースがあり家のメンテはすべ

てDIY開拓者時代の生活を彷彿とさせられました。

この国ではY sとは言わずYサービスマンとかウイメンといい例会日も別々で全く協力しあわない感じでした。ベンディゴサウスサウスクラブ 10 周年の例会で初めてのメンの例会に参加しました。リタイヤした人だけ集まって作ったクラブでランチタイムに例会があり持ち寄りランチで老後を楽しんでいました。またニコニコはスクワイヤーといい、一人ひとりしゃれた一言、仕入れてきた笑い話や冗談と共にまわされていました。

うらやましいなと思ったのは専用の会場があり会員の作品キルトまで飾られていました、ウイメンはそれぞれの土地の特徴を生かした得意のキルトを作りで大々的にファンド集めをしていました。

YMCAは独自に事業をして例えばジムやプールで成り立たせています。

次に参加したカンガルーフラットクラブとエチカクラブとの合同例会はメンバーの一人が高校の先生生徒に材料費を渡して作ってもらった食事を楽しむ例会でした。それも例会前に飲み会がありそれから始まりました。「例会前に飲んでいいの？」と聞くとフェローシップと言うんだそうです。

ベンディゴ地域でいちばん大きなベンディゴクラブは子供の科学技術教育のミュージアムの支援をしておりその金額は年間 500 万円です。

次にアララットクラブに行きました。市民祭りを支援しており、ちょうど市民祭りで実行委員長がメン。売店やバーベキューなどの売りあげがファンドです。コールドデックという宝探しで広場埋め込まれた宝を金属探知機で探すゲームで皆喜々として楽しみ、設備が整ったバーベキューではY sノメンバーだけでなく一属郎党その知り合いまで集まって和気あいあい、地域ぐるみの親しさをすごく感じました。

ここでも動物園につれて行かれ、一部放し飼いのワラビーなど触ったり餌を与えたりできました。

次のアデレードまでバスを乗り継いで 8 時で割と大きな街です。

アデレードクラブは姫路クラブとDBCを結んでおり、東京クラブとDBCのセントラルクラブ共に素晴らしい日本庭園がありました。次に行くポートピリはワインの産地です。教会の讃美歌伴奏はギターという斬新な雰囲気でした。最後のブローケンヒルはドクターヘリが必要な土地でYMCAが不動産に手を出し倒産、人手に渡りメンの例会はYWCAでやっていました。

最後のブローケンヒルではラッフルが収入源でただただ当たるのを楽しみ子供たちの運動やトレーニングはYMCAの職員の担当でした。ブローケンヒルからシドニーまで車で 14 時間でした。YMCAとY sとの関係は日本のように一緒になって何かをするのではなくY sは独自にファンドをしてYMCAに寄付するシステムでした。

オーストラリア人は花・鳥・動物・家族など人間関係をより身近に感じる生活をしていると強く感じました。

かつて市電に乗ると {老人に席を譲ろう} と張り紙したシートに若者が座っている。日本同様シルバーシートは有っても無くても同じだなと思ったが、その有っても無くても意味が下車するとき変わっていた。老人が乗車して来るとさっと席を空ける、一般席でも同じだったことを思い出した。

小山ワイズも街のアンチャンが老人を抱えるようにして乗車に手を貸していたと語っていた。

オーストラリア人の祖先の大半は植民地を欲がりまくった英国人。庭づくり、探鳥、狩りが心底好きな英国人が、べらぼうに広い土地に根付いたら、ゆとりの暮らし方はこうなるのかと考えさせられた。

今月はBF (Brotherhood Fund)の強調月間です。

BFは、ワイズメンズクラブでもっとも古くからおこなわれている国際プログラムで、使用済み切手の換金、現金の拠出により国際協会に集められた基金を、国際理解とリーダーシップ開発の為に用いる基金です。資金は、BF代表(ワイズ運動の親善大使)の、主に交通費に使われて、他地域のクラブの公式訪問時に活用されます。(ロースターより引用)

使用済み切手は、各クラブで集めたものをまとめて換金します。近年、郵便事情も様変わりし、切手を使っての通信事情に変化が起きています。ブリテンも昔は郵送に頼っていましたが、メールでの配信に移行しています。しかし、我がクラブでは、切手の回収を行っておりますので、例会時に持って来て頂き、ポストに入れて頂きます様にお願ひ致します。

BF担当・副会長 石丸 由利

<西東京YMCA便り>

村山 達哉

3月となり、次第に春の訪れを感じられるようになりました。

3月は、様々な出会いや別れの季節でもあります。今年度も、YMCAで様々な経験や体験を重ねてきた多くのボランティアリーダーが卒業を迎え、次のステージへと巣立っていきます。残り少ない現役リーダーとしての時間を有意義に過ごし、YMCAでの経験や仲間と過ごした日々の中で培ってきたものを糧に、社会へと大いに羽ばたいていってほしいと願っています。そんな卒業リーダーだけでなく、西東京センターに集う多くの若者たちを、これからも応援していただければと思います。

さて、3月に予定されているプログラムの準備も佳境に入ってきました。短い日数ではありますが、参加してくる子どもたちにとって、普段は出来ない多くの体験と、たくさんの発見や気づき、嬉しさや喜びで溢れるものとなるように、最後までリーダーたちとともに準備してまいります。無事にプログラムが終えられますよう、どうぞお祈り下さい。

今年度も、様々お支えをいただきまして本当にありがとうございました。来年度も元気な皆様にお会い出来ることを楽しみにしております。どうぞ来年度もお支えよろしくお願ひいたします。

<西東京センター及び東京YMCAの主な予定>

- 3/4-7 スノーマンキャンプ
- 3/11 東日本大震災5周年 復興支援活動報告会及び街頭募金
- 3/13 春季宿泊プログラム 打ち合わせ会 / 2015年度卒業リーダーを祝う会
- 3/13 中高生グループ活動「TeenS」3月例会
- 3/18-21 春季スキー実技リーダートレーニング
- 3/23-25 春季日帰りプログラム「わんぱくキッズ」
- 3/26-30 春季宿泊プログラム「シュプール・ユースキャンプ」/「ユーススキーキャンプ」

13日に行われたあずさ部評議会(松本)でCS助成金対象になり、2万円を補助金で受け取りました。また、当日4月1日2日は西のリーダー中心の子供遊びコーナーと、バザーを行いたいと思います。またバザー献品をよろしくお願ひします。4月1日6時30分から西東京センターで値付けをしますご準備ください。(山口)

4月のハッピーバースデー 宮内 ひろみメネット(4・1) 村山 達哉職員(4・30)

4月例会(4・6) 司会 山口イズ 聖書・祈祷 伊佐ワイズ 受付 渡辺・松田ワイズ

卓話 「マイナス金利とは」 綿引 康司 公益財団法人多摩信 地域文化財団館長

当日は6時15分 多摩信美術館入口に集合、美術館見学後例会会場に向かいます。